
水裁

haku567

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

水裁

【Nコード】

N5790Z

【作者名】

haku567

【あらすじ】

いつもと変わらぬ日常・・・だが その日常を覆す事が起こってしまう

悠は両親から引き継いだ偉大な力を用いて人を救う為に使おうとするが・・・

変わらぬ日常

自分は恵まれていない
異様な力を持ち人を脅す
言わば 最低な人間

「で・・・」

今 自分の目の前に大きな建物が建っている
そう 学校

どうやら父がこの学校の学園長と昔からの長い付き合いらしい
そのお陰で自分はこの学校に編入できるのだ
両親は幼い頃 自分と妹を置いてこの世を去ってしまった
だから非常に生活がキツイ状態だ
学校が始まるから 妹に家で留守番をしてもらっている

少々心配にもなったが 自分は学校へと足を進めた
それにしても大きな学校だ
？ 学校？・・・違う 学園だな
「つと・・・学園に入る前に学園長に挨拶していくか・・・」

ー学園長室前ー

「ここか・・・」

そう言いつつ ドアを三回程ノックし、入っていった
「失礼します」

「おお 来たな 大きくなったな」

と少々笑みを浮かべながら俺の頭をぐしゃぐしゃとする

「お久しぶりです 何年ぶりか解りませんけど・・・」

「久しぶりだな・・・」

と 少々沈黙が訪れる

「・・・両親のこと・・・」

「・・・・・・」

「残念・・・だったな・・・」

「ええ・・・でも」

「?・・・」

「自分は両親がいなくても生きていけるので
と微笑を浮かべた

「そうか・・・何かあったら私に言え 手助けになるかもしれん」
「ありがとうございます」

とお辞儀をし 学園長室を後にしようとした時・・・

「おっ・・・そうだ これを持って行くといい」

と学園長が投げたものを受け取る

「これは・・・?」

「君の親父さんから預かっていたものだ きっと役に立つ・・・」

「?・・・ありがとうございます」

今度こそ 学園長室を後にした・・・

「あの目・・・あの子は力を持っている・・・」

―教室前―

此処が・・・自分の教室

ドアを開けようとしたときある事に気がつく・・・

ドアの間に・・・黒板消し・・・

あれ? 此処は学園じゃないの?

一気に想像をぶち壊された

『その幻想をぶち壊してやる!』

あー・・・はい ぶち壊されました

黒板消しを外し 中に入ろうとする

入ったとたんざわつきだした

「あの子が噂の子？・・・」

「そう なんでも不思議な力を持っているらしいよ」

「興味心身なのだ・・・」

何だ？力・・・？

「静まれ！今日から入ってくる生徒だ」

「あー・・・日向悠と言います 未熟者ですがよろしくお願いします」

ー夕方ー

終わった・・・長かった・・・今日一日

でも・・・楽しそうな学校で良かった

・・・

帰りに彼方に何か買っていてやるか・・・

とりあえず スーパーへ向かうことにした

いい買い物をした

この日 玉ねぎが10個で50円でした

カレーでも作ってやるか・・・

と 思いながら家へ向かった

ー家ー

「ただいまーつと・・・」

なにやらドタドタと足音を立てて近づいてくる
妹だ

「お兄ちゃんおかえり！」

帰ってそうそう抱きつかれた

「おうっ ただいまゝ」

彼方の頭をぐしゃぐしゃとする

「お兄ちゃん 今日のご飯は何？」

「喜べ 今日はカレーだ」

「カレー？ やったあ！」

大はしゃぎする彼方 可愛いもんだ

神様？

「朝か・・・まだ眠いな・・・」

「・・・やっぱり・・・またか」

自分の布団に彼方が寝ている事が解った

「彼方 起きろ 朝ごはんにするぞ」

ゆさゆさと彼方の体を揺らす

「んっ・・・お兄ちゃん？・・・」

目が覚めたようだ

言っておくが 自分はロリコンではない

「・・・朝食の用意でもするか・・・」

自分は台所へ向かった

「今日の朝ごはんはっつと・・・ハムエッグで良いか」

自分は冷蔵庫から卵とハムを取り出しつくり始める

階段がドタドタと音を出す

彼方が起きてきた

ちなみに 彼方の着ているパジャマは母の物なのでとても大きい

大きい為 スポンは履いていない

「お兄ちゃんおはよっ」

「おはようっ 悪いが新聞を取ってきてくれないか？」

「わかったっ 行ってくるっ」

彼方は外に出て行った

相変わらず良い子だなっ

注意 自分はロリコンではない

大事なことなので二回言いました

「お兄ちゃんっ！大変！大変だよ！」
走って帰ってきた

「どうした？そんなに慌てて・・・」

「外に女の人倒れてたんだよ！」
は？・・・

マジだったとは・・・

でもなんであんなに傷だらけで・・・

「お兄ちゃん！お姉ちゃん起きたよ！」

「此処は？・・・うつ・・・」

「あんまり体動かさない方がいい　一応治療はしたが・・・」

「ところで・・・何であんな場所で・・・」

「人・・・」

「人？・・・」

「はい・・・人を探していて・・・」

「そうか・・・」

「助けてくれた事　恩に斬ります」

「いや・・・気にするな」

まあ・・・いくつか気になる事もあるが・・・

彼女がこつちをずっと見つめている・・・

「神・・・様？・・・」

はい？

「神様・・・ですか？・・・」

「いいえ　全然違います」

「でも・・・その目は・・・」

「やはり！神様ですね！？」

抱きつかれた初対面なのに・・・

「だから・・・神様じゃないって！」

「申し送れました・・・私　神様の奴隷こと

ナンバー 0076 T-5a6r の雪と申します」

は？ 奴隷？ ナンバー？

「よろしく願います！」

よろしくされちゃったよ・・

「雪は寂しかったんですよ？・・急に天界を出て行かれたことを・・

」

「神様は奴隷にも優しくかったですよ？」

そうだったのか

「忘れたなら思い出させてあげます・・」

一瞬の出来事だった

初対面のはずなのに・・キスまで・・

彼方は顔を真っ赤にし 雪を突きどばした

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5790z/>

水栽

2011年12月19日21時51分発行